

特集 **「いのちの水」を届けるために**

有害物質の多い地下水を有効な水源として活用しようと、水資源開発の技術者、角田晋一郎隊員は水質検査や浄化方法を検証している。南部諸民族州とその周辺の地下水にはフッ素が多く含まれ、「目下の活動は、フッ素の除去方法を検討すること」だと言う。さまざまな浄化方法の中からエチオピアの地方給水に最適な手法を見いだすため、現地スタッフとともに試行錯誤を重ねている。「スタッフには、教科書や外国の事例ではなく実験結果から学んでいくという科学では基本的な姿勢が欠けていたが、一緒に実験を繰り返す中で、理論ではなく実践に基づいた結果をスタッフたちが理解してくれるようになった」と変化の兆しを報告する。

また、給水施設の整備に当たるのは土木技術者の児島直美隊員。同州には給水施設の施工管理を担える人材が不足している。児島さんは現地の技術者と村に足を運んで現場の調査や測量を行うなど、施設の設計から積算、工事発注と、施設完成までの一連の業務をサポートしている。公用語のアムハラ語でのコミュニケーションに苦労しているそうだが、根本的な考え方も仕事の進め方もスピード感もまったく違う異国の地で、小さなことでも何か一つ分り合えた瞬間は大きな喜びとなる。「自分のやり方に共感し、参考にしてもらったことで同僚とのきずなが深まったときはうれしかった。」

技術者育成と住民の衛生教育

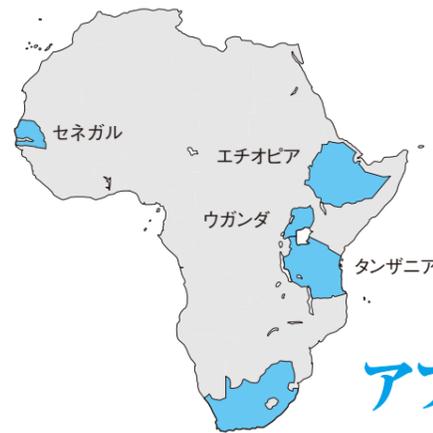
ンザニア、南アフリカ共和国、ウガンダへの派遣も予定されている。



給水施設の建設予定地で測量を行う現地スタッフ。最近、セメントやパイプなど資材の高騰も問題となっている



地表に染み出た水をくむ子ども。不衛生な地表水の利用は水系感染症の大きな原因だ



南アフリカ共和国

アフリカの水問題に挑む「水の防衛隊」

私たち人間の生活になくはならない水がアフリカで不足している。一人でも多くの人が安全な水とともに生きられるよう、日本の「水の防衛隊」が動き出した。

世界一給水率が低いエチオピア

アフリカ東部エチオピア。ここは世界でも給水率の低い国の一つだ。人口約8000万のうち、安全な水を手にできるのはわずか2割程度。6000万以上もの人々が安心して水を使うことができない。

中でも、首都アジスアベバから車で7時間の南部諸民族州は、国内で3番目に給水率が低い。人々は手掘り井戸や川・湖沼の地表水を一日何時間もかけて運ぶなどして生活用水を得ている。だが、こうした水は不衛生で、下痢症やコレラ、腸チフス、赤痢などの水系感染症にかかる人が後を立たない。豊富な地下水にもフッ素や鉄、マンガンなどの有害物質が含まれ、飲料用には向かない。

そうした状況を改善しようと、今まさに活動しているのが3人の「水の防衛隊」だ。青年海外協力隊員の彼らは、それぞれの専門性を生かして、同州が進める水源開発や給水施設の拡充事業の一翼を担っている。

「水の防衛隊」とは、より多くの人々に安全な水を安定的に届けるため、日本の技術者を水問題が深刻なアフリカ諸国などに派遣する日本の構想。2008年に横浜で開かれた第4回アフリカ開発会議(TICAD IV)で福田康夫首相(当時)が発表した。水資源の確保、給水施設の整備・維持管理、水管理組合の活性化、衛生啓発といった分野を中心に、2013年までの5年間で約200人のJICAボランティアや専門家を派遣する計画となっている。

その第一陣がエチオピアの3人。すでにセネガルでも活動が始まっているほか、今後タ



水くみを手伝う少女と児島さん。こうした労働によって教育を受けられない子どもも多い

角田さんと児島さんが技術者の育成に取り組み一方、村落開発普及員の鈴木淑子隊員は主にコミュニティに対して給水施設の維持管理方法や水に関する衛生教育を行っている。もともとエチオピアにはこうした活動を担うコミュニティプロモーターと呼ばれるスタッフがいますが、人数・能力が十分とはいえない。鈴木さんはコミュニティの形成と、プロモーター育成に力を入れる。

安全な水を手にできない人は世界で11億人。その多くが暮らすアフリカの水問題を解決したいという熱き思いを込めた日本の「水の防衛隊」構想。水をめぐるさまざまな問題から人々を守る。彼らの今後の活躍が期待される。



2008年12月、「水の防衛隊」としてセネガルに派遣された村落開発普及員の奥河洋介隊員(右)と段原晴美隊員。日本と現地で「水の防衛隊」としての研修を受け、12月から住民による給水施設の維持管理体制を強化するための活動に取り組んでいる

「水の防衛隊」募集中!

JICAでは、「水の防衛隊」としてアフリカで活動する青年海外協力隊・シニア海外ボランティアを募集しています。詳細はホームページ(<http://www.w.jica.go.jp/>)をご覧ください。

派遣予定国：エチオピア、ケニア、タンザニア、ウガンダ、ルワンダ、マダガスカル、ザンビア、ガーナ、セネガル、ベナンなど
活動分野：村落給水（公衆衛生、水管理組合の活性化、給水施設の維持管理など）、都市給水（運営維持管理、浄水施設管理、配管管理など）

募集期間：2009年度春（4月上旬～5月上旬）ほか順次